

評価のめやす【目標値達成の場合…3または4 目標値以下の場合…2または1 ※ 1～2の評価の場合は具体的な改善策を記入】

評価項目		方策と手立て	評価指標	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員の方から	これからの改善策と手立て
たくましい体	体力の向上を図る	体力向上プラン作成による実態・現状把握	体力テストの目標達成 (D・Eの児童を男子9%以下、女子15%以下)	2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で制限が多い中、仕方ない面もあるが、D・Eの児童の割合増はよろしくない。また、習い事で運動をしている子としない子で結果が二極化しているのではないかと考える。体が基本と言われるが体力低下は、学力や豊かな心の育成に大きく関わるため、運動や遊びの工夫が必要である。コロナ対策をとり、公園や広場での遊びができることを望む。体力向上は一朝一夕にはいかないが、継続的に外遊びを推奨してほしい。</li> <li>遊び方、むし歯の治療、食については保護者の更なる関心がほしい。</li> <li>姿勢については、児童と保護者の意識の差が大きいため、家庭への姿勢チェックの周知を徹底して、家庭への協力依頼をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の課題をもとに、実際に即した「体力向上プラン」を作成し、全体的な体力の向上を図っていく。</li> <li>運動や遊びの日常化をさらに図るために、週1回「みんなで遊ぶ日」などを設定し、昼休みの外遊びを奨励していく。また、帰宅後の過ごし方も啓発していく。</li> <li>「立腰指導」の継続をとおり、姿勢に気をつけて生活する意識を高め、体幹を鍛える。</li> <li>健康な生活習慣を身に付けさせるために、「さわやかチェック」の集計結果を「保健便り」に掲載し、保護者への啓発を図っていく。</li> <li>歯磨きの大切さやむし歯治療の啓発をしていく。</li> </ul>
		「楽しい体育の授業」の実践	体育の時間や昼休み時間楽しく運動する子 90%以上				
		運動や遊びの日常化(一校一運動の実践)					
豊かな心	望ましい基本的な生活習慣・態度を身に付ける	生活リズムチェックの実践・指導・見届け	姿勢に気をつけている生活している子 80%以上	2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-Uテストの実施や取組は65.5%であるが、保護者5%の方が評価1を見逃すことはできず、今後更なる取組に努めてほしい。</li> <li>ボランティア活動に9割近くの児童がいるのはとても誇らしく、また、きまりを守っている子、ノートク清掃に取り組む子、友達と助け合って生活している子達がそれぞれ9割近くいることは素晴らしいので今後も頑張してほしい。</li> <li>あいさつについては、児童も少ないと理解しているのか、引き続きあいさつができるようにしてほしい。</li> <li>いじめの問題は表に出していない問題を家庭では抱えているのではと思った。表現しやすい環境が大切である。</li> <li>規範意識の醸成は、家庭との連携が必須と考えられる。特に、低学年のあいさつ励行や思いやりについての指導を家庭と協力して行うべきである。マスク生活が長く続き、地区の人々とのあいさつも少なくなった気がする。マスク下の子どもの表情も読めない。</li> <li>クラス内での交友関係に悩む子へのサポートが今一度ついに思える。先生と生徒の信頼関係づくりを今一度取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソーシャルスキルトレーニング」を取り入れ児童の自己肯定感を高め、児童一人一人が居心地のよさを感じる学級集団づくりを行っていく。</li> <li>上学年を中心に、朝のボランティア活動を呼びかけ、自主的に取り組めるようにする。</li> <li>「おいろぐ」を有効的に活用し、目的意識をもたせるようにする。</li> <li>児童が主体となった取組を検討・実施し、様々な機会を通じてあいさつの必要性について指導し、学校や家庭、地域とあいさつ活動が広がっていくようにする。</li> <li>縦割り清掃、「ノートク清掃」に取り組む、毎学期「がんばり週間」を設定し、清掃の在り方について指導していく。</li> <li>道徳授業参観を設定するなどし、道徳教育の充実とともに、その必要性を保護者にも啓発しながら、さらに、心の教育を推進していく。</li> <li>「自分がされていやなことは絶対しない」との指導をくり返し行い、児童の意識を高めていく。</li> </ul>
		歯の治療の促進(保護者啓発も含む)	むし歯治療率 85%以上(非むし歯+治療率)				
		実践力の身につく安全指導、避難訓練	自ら自分の身を守ろうとしている子 85%以上				
豊かな心	食育の充実を図る	食育の推進	栄養のバランスに気をつけて食事をしている子 85%以上	2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-Uテストの実施や取組は65.5%であるが、保護者5%の方が評価1を見逃すことはできず、今後更なる取組に努めてほしい。</li> <li>ボランティア活動に9割近くの児童がいるのはとても誇らしく、また、きまりを守っている子、ノートク清掃に取り組む子、友達と助け合って生活している子達がそれぞれ9割近くいることは素晴らしいので今後も頑張してほしい。</li> <li>あいさつについては、児童も少ないと理解しているのか、引き続きあいさつができるようにしてほしい。</li> <li>いじめの問題は表に出していない問題を家庭では抱えているのではと思った。表現しやすい環境が大切である。</li> <li>規範意識の醸成は、家庭との連携が必須と考えられる。特に、低学年のあいさつ励行や思いやりについての指導を家庭と協力して行うべきである。マスク生活が長く続き、地区の人々とのあいさつも少なくなった気がする。マスク下の子どもの表情も読めない。</li> <li>クラス内での交友関係に悩む子へのサポートが今一度ついに思える。先生と生徒の信頼関係づくりを今一度取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育について、食に関する指導の全体計画に沿って指導していくとともに、特に、栄養のバランスについては、高学年では家庭科の授業を中心に指導していく。</li> </ul>
		給食指導の充実					
豊かな心	規範意識を育てる	自己指導能力の育成(計画的な全校SSTの実践他)	いじめ問題や生徒指導に積極的に取り組んでいる 80%以上	2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-Uテストの実施や取組は65.5%であるが、保護者5%の方が評価1を見逃すことはできず、今後更なる取組に努めてほしい。</li> <li>ボランティア活動に9割近くの児童がいるのはとても誇らしく、また、きまりを守っている子、ノートク清掃に取り組む子、友達と助け合って生活している子達がそれぞれ9割近くいることは素晴らしいので今後も頑張してほしい。</li> <li>あいさつについては、児童も少ないと理解しているのか、引き続きあいさつができるようにしてほしい。</li> <li>いじめの問題は表に出していない問題を家庭では抱えているのではと思った。表現しやすい環境が大切である。</li> <li>規範意識の醸成は、家庭との連携が必須と考えられる。特に、低学年のあいさつ励行や思いやりについての指導を家庭と協力して行うべきである。マスク生活が長く続き、地区の人々とのあいさつも少なくなった気がする。マスク下の子どもの表情も読めない。</li> <li>クラス内での交友関係に悩む子へのサポートが今一度ついに思える。先生と生徒の信頼関係づくりを今一度取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソーシャルスキルトレーニング」を取り入れ児童の自己肯定感を高め、児童一人一人が居心地のよさを感じる学級集団づくりを行っていく。</li> <li>上学年を中心に、朝のボランティア活動を呼びかけ、自主的に取り組めるようにする。</li> <li>「おいろぐ」を有効的に活用し、目的意識をもたせるようにする。</li> <li>児童が主体となった取組を検討・実施し、様々な機会を通じてあいさつの必要性について指導し、学校や家庭、地域とあいさつ活動が広がっていくようにする。</li> <li>縦割り清掃、「ノートク清掃」に取り組む、毎学期「がんばり週間」を設定し、清掃の在り方について指導していく。</li> <li>道徳授業参観を設定するなどし、道徳教育の充実とともに、その必要性を保護者にも啓発しながら、さらに、心の教育を推進していく。</li> <li>「自分がされていやなことは絶対しない」との指導をくり返し行い、児童の意識を高めていく。</li> </ul>
		自主的な学級の係活動や全校ボランティア活動の推進	「学校ボランティア」に取り組む子 85%以上				
		キャリアパスポートの有効的な活用					
豊かな心	思いやりの心を育てる	いつでも、どこでも、誰にでも大きな声での挨拶・返事	自分から明るいあいさつや返事ができる子80%以上	2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-Uテストの実施や取組は65.5%であるが、保護者5%の方が評価1を見逃すことはできず、今後更なる取組に努めてほしい。</li> <li>ボランティア活動に9割近くの児童がいるのはとても誇らしく、また、きまりを守っている子、ノートク清掃に取り組む子、友達と助け合って生活している子達がそれぞれ9割近くいることは素晴らしいので今後も頑張してほしい。</li> <li>あいさつについては、児童も少ないと理解しているのか、引き続きあいさつができるようにしてほしい。</li> <li>いじめの問題は表に出していない問題を家庭では抱えているのではと思った。表現しやすい環境が大切である。</li> <li>規範意識の醸成は、家庭との連携が必須と考えられる。特に、低学年のあいさつ励行や思いやりについての指導を家庭と協力して行うべきである。マスク生活が長く続き、地区の人々とのあいさつも少なくなった気がする。マスク下の子どもの表情も読めない。</li> <li>クラス内での交友関係に悩む子へのサポートが今一度ついに思える。先生と生徒の信頼関係づくりを今一度取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業参観を設定するなどし、道徳教育の充実とともに、その必要性を保護者にも啓発しながら、さらに、心の教育を推進していく。</li> <li>「自分がされていやなことは絶対しない」との指導をくり返し行い、児童の意識を高めていく。</li> </ul>
		梅北小「よい子の約束」の指導	きまりを守って生活している子 80%以上				
		ノートク清掃の指導(師弟同行)	「ノートク清掃」に取り組む子 90%以上				
自ら考える力	学力向上を図る	「学習のルール」の指導の徹底	「学習のルール」を守っている子 80%以上	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の学習指導に取り組んでおられる姿勢が伺われる。また、学力向上では、平均を下回る児童にも分かる授業を展開していただくようお願いする。キュビナを利用した学習で、より楽しく家庭学習に取り組めるように思う。</li> <li>読書する児童数と読書冊数の多いのは、素晴らしい。本に親しむことが増えたのもとてもよいことだと思う。本に親しむことは学習への意欲にもつながるので、これからも伸ばしてほしい。ただ、読書と家庭学習について、児童と保護者の認識の差が若干気になる。</li> <li>ICT活用については、今後益々要求されると思うので、更なるステップアップを目指してほしい。また、学年に応じての指導となると考えるが、今後活用例を収集して推進してほしい。ICT授業や活用が多くなり子どもたちへの接し方も少しずつ変わってきたのだと思う。(人との関わり方、発表の仕方や先生と生徒の間のとり方等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に「学習のルール」について指導するとともに、くり返し指導を通して、定着化を図る。</li> <li>様々な校内研修を計画的に実施し、4つのチェックポイントやICTの活用による授業改善について研修を深めていく。特に、「身に付けさせたい力」を明確にし、平均をやや下回る児童にも分かる授業を展開していく。</li> <li>子どもたちが主役となる授業やより対話的な学習の在り方の研修を通して、児童が相手意識や根拠をもった表現ができるようになる。</li> <li>ルールに基づきながら、タブレットPCを児童に積極的に活用させ、児童に必要なICT活用能力を育てていく。</li> </ul>
		落ちついた学習環境の工夫(雰囲気づくり)授業改善の「4つのチェックポイント」を意識した授業の展開	めあて達成を目指して意欲的に学習する子80%以上 CRTテスト全国平均以上 60%以上 県・全国学力調査 平均以上				
		表現活動の質の向上を目指した授業づくり(昨年度までの主題研の継続)	分かるまで、できるまで学習する子 80%以上				
自ら考える力	読書教育を推進する	ICTの段階、ステップ0、ステップ1、ステップ2の達成をめざす教育活動の実践	ステップ2の達成学級 100%	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の学習指導に取り組んでおられる姿勢が伺われる。また、学力向上では、平均を下回る児童にも分かる授業を展開していただくようお願いする。キュビナを利用した学習で、より楽しく家庭学習に取り組めるように思う。</li> <li>読書する児童数と読書冊数の多いのは、素晴らしい。本に親しむことが増えたのもとてもよいことだと思う。本に親しむことは学習への意欲にもつながるので、これからも伸ばしてほしい。ただ、読書と家庭学習について、児童と保護者の認識の差が若干気になる。</li> <li>ICT活用については、今後益々要求されると思うので、更なるステップアップを目指してほしい。また、学年に応じての指導となると考えるが、今後活用例を収集して推進してほしい。ICT授業や活用が多くなり子どもたちへの接し方も少しずつ変わってきたのだと思う。(人との関わり方、発表の仕方や先生と生徒の間のとり方等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の図書室だけでなく、「くれよん号」「ひばり文庫」も活用しながら、より多くの本に親しめるようにし、様々な機会を通じて、子どもの読書意欲を高める場を工夫していく。</li> <li>「読み聞かせボランティア」の方々や図書館サポーターに協力をいただき、様々な本に触れる機会をもてるようにする。</li> </ul>
		図書室の積極的な活用と内容の充実	年間図書貸し出し数(一人100冊、全体15100冊)				
		家読(親子読書)の推進	読書量調査の結果が、昨年度を上回る				
自ら考える力	家庭学習の習慣化を図る	くれよん号やひばり文庫の積極的な活用	進んで読書に親しむ子 80%以上	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の学習指導に取り組んでおられる姿勢が伺われる。また、学力向上では、平均を下回る児童にも分かる授業を展開していただくようお願いする。キュビナを利用した学習で、より楽しく家庭学習に取り組めるように思う。</li> <li>読書する児童数と読書冊数の多いのは、素晴らしい。本に親しむことが増えたのもとてもよいことだと思う。本に親しむことは学習への意欲にもつながるので、これからも伸ばしてほしい。ただ、読書と家庭学習について、児童と保護者の認識の差が若干気になる。</li> <li>ICT活用については、今後益々要求されると思うので、更なるステップアップを目指してほしい。また、学年に応じての指導となると考えるが、今後活用例を収集して推進してほしい。ICT授業や活用が多くなり子どもたちへの接し方も少しずつ変わってきたのだと思う。(人との関わり方、発表の仕方や先生と生徒の間のとり方等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習や宿題の在り方について、「中郷ブロック」のきまりを再確認し、年度当初の参観日の懇談時に保護者と確認し、習慣化を図っていく。</li> </ul>
		計画的な読み聞かせ活動の推進					
		中郷中ブロック小中一貫学習習慣ガイドの活用	家庭学習の習慣が身につけている子 80%				
自ら考える力	家庭学習の習慣化を図る	発達段階に応じた家庭学習内容の提示		3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の学習指導に取り組んでおられる姿勢が伺われる。また、学力向上では、平均を下回る児童にも分かる授業を展開していただくようお願いする。キュビナを利用した学習で、より楽しく家庭学習に取り組めるように思う。</li> <li>読書する児童数と読書冊数の多いのは、素晴らしい。本に親しむことが増えたのもとてもよいことだと思う。本に親しむことは学習への意欲にもつながるので、これからも伸ばしてほしい。ただ、読書と家庭学習について、児童と保護者の認識の差が若干気になる。</li> <li>ICT活用については、今後益々要求されると思うので、更なるステップアップを目指してほしい。また、学年に応じての指導となると考えるが、今後活用例を収集して推進してほしい。ICT授業や活用が多くなり子どもたちへの接し方も少しずつ変わってきたのだと思う。(人との関わり方、発表の仕方や先生と生徒の間のとり方等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習や宿題の在り方について、「中郷ブロック」のきまりを再確認し、年度当初の参観日の懇談時に保護者と確認し、習慣化を図っていく。</li> </ul>

評価項目	方策と手立て	評価指標	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員の方から	これからの改善策と手立て	
地域との連携	学校運営協議会の充実と地域と共にある学校づくりを推進する	中郷地区めざす児童生徒像「地域に誇りをもって、夢に向かって、明るく元気に努力する中郷の子ども」の具現化を目指した3つの具体的方策の推進	学校運営協議会が計画的に実施されている 90%以上	2	2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域との連携は積極的になられていると思う。コロナ禍において地域の活動や学校活動への参加が難しい中で、よく取り組んでいると思う。コロナ禍での実践は困難な状況だが、今後も情報発信を継続的に行ってほしい。</li> <li>○ 本年度も福祉協議会が主催する敬老の日「お元氣じゃひか通信」に全校で取り組んでいただき、中郷地区全域に配付された児童のハガキは多くの方に感謝された。</li> <li>○ 計画された協議会は参加したが、コロナ禍によって中止された会議もあり、完全ではなかったと思う。また、学校内の学生の状況を確認できなかったため、顔や姿が見えにくかった。もう少し交流を深める計画が必要である。</li> <li>○ 地域の行事や地元の行事も少なくなったが、参加者が少ないのが寂しい。パンフレット配布等の協力をしていただき、感謝している。</li> <li>○ コロナ禍で行事や各種イベントが開催の中止や自粛により思うようにできなかったのは仕方ない。公民館との連携が少なくなり、子どもたちの地域に対する思い、思い出等が少なく、地域への愛着がなくなるように思える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画的に学校評価を行うとともに、中郷地区学校運営協議会(年5回)の充実を図り、共通の取組を進めていく。</li> <li>○ 外部人材の活用を積極的に行っていく。学習支援の必要な内容については、連絡調整し、地域のよさを生かす授業や学習支援ボランティアの活用を積極的に進めていく。</li> <li>○ ホームページの更新に努めるとともに、必要に応じて学校からの文書案内を行い、積極的な情報の発信を行う。</li> </ul>
	地域素材の活用や交流を通してのふるさと学習の充実を図る	地域を生かした学習の充実 学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用 地域貢献活動の実施	地域人材や資源が教育活動に活用されている 80%以上 学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用 年間1単元(題材)以上 地域の行事に積極的に参加している子 60%以上				
	情報の積極的な発信と家庭・地域・関係機関との連携する	積極的な情報の発信(ホームページや学校だより等) 参観日等の積極的な呼びかけとPTA活動の充実	学校だよりやホームページによる啓発がよくなされている 85%以上 参観日や学校行事の参加率 85%以上				
	学校運営協議会による地区合同の取組	地域に誇りをもつ 夢に向かわせる 明るく元気に	学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用 ノーマディアウイークの実施 学力向上のための小中連携強化 9ヶ年を見通した学習習慣ガイドの活用 学校・地域によるあいさつ運動 小中合同あいさつ運動				

★は再計上内容